

H28年度の勉強会での到達点を踏まえ、29年度も引き続き、検討の深堀を予定

	H28年度 到達点	平成29年度 取組(案)
消防広域化	<p>《パターン分けと粗い分析》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 府内27本部を1～10ブロックの5つの広域化パターンを設定。</li> <li>* 通信指令機能の集約効果や広域化に伴う初期経費の粗い試算等の実施</li> </ul>	<p>《詳細分析の実施》</p> <p>(検討パターン)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* パターンを以下の3パターンを基本に、より詳細な分析の実施</li> <li>①10ブロック(現行広域化推進計画の細分化)</li> <li>②8ブロック (           "           のブロック)</li> <li>③1ブロック (究極の広域化)</li> </ul> <p>※ただし、調査の状況や勉強会での議論の内容によっては、上記の派生形(ex.泉州1ブロック化など)についても、今後、付加的に検討する可能性はある。</p> <p>(検討内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 広域化による効果等分析(別紙参照) (現行消防力の把握、広域化による消防力の最適配置)</li> <li>* 実現手法の検討(委託化、組合化、移譲など)</li> <li>* 広域化に伴う課題(ex地元連携等)の解決方策の検討</li> </ul>
消防本部間の水平連携の強化	<p>《検討素案の提示》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 全本部対象のアンケート結果での課題等を踏まえ、「人材」、「資機材」、「救急」、「大規模災害対応」の4つの側面から、検討素案を提示</li> </ul>	<p>《実現に向けた方法等の検討》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 4分野にかかる各取組案について、実現性の可否、実現のための手法等について検討</li> </ul> <p>(検討内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 制度の目的・概要</li> <li>* 現行制度上の実現性の可否、課題・問題点の整理</li> <li>* 実現化方策・ロードマップ 等を取組毎に検討</li> </ul>

# 平成29年度 検討スケジュール(案)

4月～6月

7～9月

10～12月

1～3月

☆

勉強会①  
・検討内容、  
進め方の  
意識共有

☆

勉強会②  
・消防力の現状分析  
・水平連携検討

★

勉強会③【中間報告】  
・広域化検討  
・水平連携検討

☆

勉強会④  
・広域化検討  
・水平連携検討

☆

勉強会⑤  
取りまとめ(案)

★

勉強会⑥  
取りまとめ

消防力強化  
勉強会

(広域化調査実施にあたっての詳細や、水平連携方策の具体的中身の検討については、必要に応じて実務者レベルで検討?)



府内消防への個別ヒアリング  
他府県事例の収集、ヒアリング

府内本部・  
首長議論

各本部・首長議論

市長会・町村長会  
合同会議(8月)  
・勉強会の状況

消防長会総会

市長会・町村長会  
合同会議(1月)  
・勉強会の状況

広域化調査

4月

契約

中間報告

・現状の運用効果  
・境界をなくした場合の効果等

再計算結果①

再計算結果②

最終結果

市町村等から  
のデータ収集

分析

勉強会議論を  
踏まえた再計算

# (別紙) 広域化による消防力強化等分析(素案)

## 【調査のねらい】

府内消防の広域化について、地域の特性や各本部の現状などを勘案した上で、「消防体制はどのようになるのか」、「各地域・各本部の課題がどう改善されるのか」等を、具体的かつ分かりやすく示した基礎資料を作成し、中長期を見据えた大阪の消防体制のあり方について、府と府内市町村が共に議論し、広域化の方向性を見極める

## 【現状分析(マッピング)】

### ○府内の地域特性

・人口集中地区(DID)/用途地域(商業、住居、工業等)/地域地区(防火・準防火)/都市機能の配置/  
木造密集市街地/病院等医療機関の分布/火災・救急発生分布 等

### ○全消防本部の署所ごとの消防力

・管轄エリア面積・人口/組織・人員・車両配備/署所の建築年次、耐震性、建替・統廃合予定の有無/  
出動基準(第一、第二出動)/出動状況(火災、救急、救助)/隣接本部との自動応援の有無/現場到着時間/  
他署所との応援・受援発生状況(火災・救急) 等

### ○予防査察等の実施体制、方法

### ○特別救助隊等の体制、装備

### ○その他(南海トラフ地震被害想定など)

## 【仮想消防本部の設定(広域化パターン毎に、新たな消防体制の絵姿(理想像)を描く)】

- ① 管轄人口規模等をもとに、仮想広域消防「本部」の組織、人員の想定。エリア毎の消防の整備水準の設定
- ② 旧消防本部は消防署とし、総務機能等は縮小
- ③ エリアが重複する署所の統合・再配置や、管轄エリアの見直しを想定
- ④ 消防力の不足地域への署所の新設、人員・車両加配等の想定
- ⑤ 特殊車両(はしご車、化学消防車)の共有化(適正配置箇所)の想定
- ⑥ ①～⑤を踏まえ、現場体制イメージを想定(乗務体制、専任体制、分野別強化など地域課題に柔軟に対応)

## 【実現手法の検討】

○広域化にかかる手法(組合化、事務委託、移譲)毎に、必要となる法改正、意思決定プロセス等のメリット・デメリットを比較検討

【広域化による効果とコストの「見える化」】

○住民サービス向上、消防体制の充実の度合い、その際必要となるコストを「見える化」

視 点	調査内容	見える化される項目
住民サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広域化で管轄エリアを変更することで、直近署所からの到着時間が短縮できるエリアと短縮効果</li> <li>○広域化で近隣署所からの応援部隊の到着が早くなるエリアと短縮効果、応援部隊の増強効果</li> <li>○現在の管轄境界を挟んで至近距離で隣接する署所の統合又は移設による効果(人員再配置効果、財政効果)</li> <li>○特別高度救助隊配備の可能性、方面本部設置の可能性(高度救助隊や特別救助隊の集約・再編等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初動の消防力、増援体制の充実 ・出動台数の増強</li> <li>○現場到着時間の短縮 ・「署所管轄の見直し」による現場到着時間の短縮 ・「署所の再配置」による現場到着時間の短縮</li> <li>○大規模災害時の消防力強化</li> <li>○広域化による課題・問題点</li> </ul>
消防体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広域化により生み出された人員の再配置による課題解決への寄与度  (例) 乗務体制、専任体制の強化 地域特性に応じた分野の増強 火災原因調査専従員の育成 査察、違反処理専門員の育成 救急救命士、指導救命士の育成</li> <li>○特殊車両の最適配置と、それによる効果(活動面、費用面)</li> <li>○指令センターの共同整備費用と、単独整備に比した経費節減効果</li> <li>○広域化による署所の統廃合による経費節減効果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現場要員の増強</li> <li>○予防業務や救急業務の高度化・専門化</li> <li>○高度な消防設備、施設等の整備 ・特殊車両の共有化、計画的な増強整備 ・高機能な設備を一元的に整備可能</li> <li>○適切な人事ローテーションによる組織の活性化 ・人事異動、派遣研修の充実</li> </ul>

消防力強化の方向性を見極め、その上で市町村レベルでの負担等のあり方について議論予定